

Pas de Trois : バレエとフィギュアに捧げる舞踊組曲

Program

I *Joie de vivre* 生きる喜び

(出演)

- 1 《エオリアンハーブ》 ショパン Étude, Op.25 No.1 (1836) 上野水香・町田樹・高岸直樹
演奏：ツヴィ・エレッツ／振付：高岸直樹
- 2 《楽興の時》 上野水香
シューベルト／ゴドフスキー編曲 Moments musicaux, D.780/3 (1828)
演奏：今井頭／振付：町田樹
- 3 《プレリュード》 ドビュッシー Prélude dans Suite Bergamasque (c.1890) 高岸直樹・町田樹
演奏：モニク・アース／振付：高岸直樹
- 4 《チャーリーに捧ぐ》 プッチーニ O mio babbino caro (1918) 町田樹[FS]
演奏：青柳呂武・小幡華子／振付：町田樹

II *Fryderyk* フレデリク

- 5 《別れの曲》 ショパン Étude, Op.10 No.3 (1832) 町田樹[FS]
演奏：ツヴィ・エレッツ／振付：町田樹
- 6 《ノクターン》 ショパン Nocturne, Op. posth. 72 No. 1 (1827) 町田樹
演奏：ツヴィ・エレッツ／振付：高岸直樹
- 7 《ノクターン》 ショパン Nocturne, Op.9 No.2 (1831) 高岸直樹
演奏：川口成彦／振付：町田樹

III *Widmung* 献呈

- 8 《継ぐ者》 シューベルト Impromptu in G Flat, Op.90/3, D899/3 (1827) 町田樹[FS]
演奏：今井頭／振付：町田樹
- 9 《献呈》 シューマン／リスト編曲 Widmung, Op. 25 No. 1 [trans. by Liszt, S. 566] (1848) 上野水香
演奏：反田恭平／振付：町田樹

Encore アンコール

- 10 《トロルドハウゲンの婚礼の日》 グリーグ Lyric Pieces, Op.65, No.6 Wedding Day at Trolldhaugen (1896)
演奏：レイフ・オヴェ・アンスネス／振付：町田樹・高岸直樹 上野水香・高岸直樹・町田樹

[*全て録音演奏／[FS]=フィギュアスケート映像]

[*上演時間=約 70 分、休憩なし]

－ 本公演について －

本公演は、NBS 主催「上野の森バレエホリデー2024」の特別公演です。様々な縁を得て友人関係にある、そしてそれぞれが希有な踊り手である上野水香・町田樹・高岸直樹が、これまでに類のない舞台に三人で挑戦します。

《バレエとフィギュアに捧げる舞踊組曲》のテーマは、「敬愛と献呈」――。

作曲家、そして演奏家への敬愛とそれに捧げる舞踊。舞踊家どうしの敬愛と、交互に振り付けて献呈する作品の数々。そして何よりも舞踊に捧げてきた長い時間と、それによって熟達した技能と表現、それを客席に届ける夢の時間がここに 있습니다。

今回取り上げるのは、主にロマン派のピアノ曲ですが、その作曲家同士もまた敬愛の間柄にあります――ベートーヴェンの死を悼んだシューベルト、シューマンが「エオリアンハープのようだ」と称したショパンの小品、シューマンの歌曲《ミルテの花》に密かに織り込まれたシューベルトの《アヴェ・マリア》、そしてその歌曲を奥深いピアノ曲に昇華させたリスト――。

第I部「生きる歓び」では、流れ、はじけ、開放される春に相応しい舞踊を。第II部「フレデリク」では、悔悟や哀しみが絶望に終わらず、諦念と矜持にいたる内面のドラマを。そして第III部「献呈」では、受け渡し受け継ぐ心のありかと、舞踊へ捧げる決意と愛が溢れるでしょう。

本公演ではさらに、地上と氷上の舞踊が交錯する初めての舞台を試みます。フィギュアスケートが、圧倒的なスピードに乗りながら、儂い夢のような身体性を呈す姿の中に、舞踊としての新しいアートフォームの可能性を秘めていることを、皆さまが再発見してくださることを願っています。

－ 出演者紹介 －

上野水香（うえの・みずか）：

東京バレエ団ゲストプリンシパル。5歳よりバレエを始め、1993年ローザンヌ国際バレエコンクールで入賞し、モナコのプリンセス・グレース・クラシック・ダンス・アカデミーに2年間留学。2004年東京バレエ団に入団。《白鳥の湖》《ドン・キホーテ》《ラ・バヤデール》などに主演し、プリンシパルとして日本のバレエ界を牽引、世界的ダンサーとの共演多数。ベジャール《ボレロ》を踊ることを許された世界でも数少ない女性ダンサーの1人。2022年芸術選奨文部科学大臣賞、2023年紫綬褒章、2024年東京新聞舞踊芸術賞を受賞。

町田樹（まちだ・たつき）：

國學院大学人間開発学部准教授。3歳よりフィギュアスケートを始め、2014年ソチオリンピック団体5位、個人5位に入賞。同年世界選手権で準優勝。翌年引退、研究の道に入る（院生時代にプロスケーターとして10作品を自作自演）。2015年より高岸直樹にバレエを師事。2020年早稲田大学大学院修了、博士（スポーツ科学）。現在は大学教員の傍ら、スポーツ関連番組制作、フィギュアスケート解説者および振付家として活躍。主著『アーティスティックスポーツ研究序説』（白水社）で日本体育・スポーツ経営学会賞、『若きアスリートへの手紙』（山と溪谷社）で〈わたくし、つまりNobody〉賞およびミズノスポーツライター最優秀賞を受賞。DVDに『氷上の舞踊芸術』（Blu-ray、新書館、2021）『フィギュアスケーターのためのバレエ入門』（同、2022）がある。

高岸直樹（たかぎし・なおき）：

東京バレエ団特別団員。1986年東京バレエ団入団、元プリンシパル。87年ベジャールの《ザ・カブキ》にて、弱

冠 21 歳で由良之助に抜擢され一躍話題に。1989 年《ボレロ》でジョルジュ・ドンの代役を務め、大成功する。1991 年オーストラリア・バレエ団に 3 カ月間客演。その他国内外の客演多数。2015 年に退団し「高岸直樹ダンスアトリエ」を設立。現在は洗足学園大学、渡辺ミュージカル芸術学院他、バレエ講師を務める傍ら、多くの舞台に立っている。《兵士の物語》(2016) では演出・振付・出演を務めた。

－ 上演作品のライナーノート －

I. Joie de vivre 生きる歓び

1. 《エオリアンハーブ》 ショパン Étude, Op.25/1 (Aeolian Harp)

振付：高岸直樹

エオリアンハーブとは、自然の風で鳴る古来の弦楽器。1836 年、フレデリク・ショパン (1810-1849) の《エチュード》の演奏を聴いたシューマンが、「エオリアンハーブのようだ」と評したことからこの題名が伝わったと言われる。実際の弦楽器は、時に不気味でもの悲しい低音が鳴るのに対して、ショパンのこの曲はあくまでも流麗、優しく温かい世界が溢れ出る。両手で分散和音を弾きながら、主に右手小指でメロディーを奏でるための「練習曲」だが、難しい技術をものともせず、美しくなめらかなツヴィ・エレッツの演奏に誘われるかのように、Pas de Trois (パ・ド・トロワ) の舞踊が繰り広げられるだろう。

次々と現れ、時に一人で、時にパ・ド・ドゥで、そして三人が興に乗って風を巻き起こす自由な、巧みな、幸福で光輝く時間がここに幕を開ける。



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

2. 《楽興の時》 シューベルト/ゴドフスキー編曲 Moments musicaux, D.780/3

振付：町田樹

フランツ・シューベルト (1797-1828) のピアノ曲として最もポピュラーな「楽興の時 第 3 番」(1823-1828)。それをポーランド出身のレオポルト・ゴドフスキー (1870-1938) が編曲した楽曲である。より豊かな和声がり響き、今井頭による文字通り「踊り心」をくすぐるようなピアノ演奏の効果もあって、いかにも東欧的な民族舞踊を連想させる編曲となっている。町田はかつて本曲を、プロフィギュアスケーター引退記念の作品(《そこに音楽がある限り》第一作、2018)として創作し滑った。リズムカルな曲調をステップやターンを基調とした極上の

スケーティングで魅せた作品を、今回は上野水香のダンス作品として町田が再創造したのである。氷上／舞台上、それぞれの特性を活かし切る振付の工夫が凝らされる。そして快活で瀟洒な舞踊にも定評がある上野水香ならではの、「楽興の時」を堪能したい。



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

3. 《プレリュード》ドビュッシー in Suite Bergamasque

振付：高岸直樹

《ベルガマスク組曲》の第一曲。クロード・ドビュッシー（1862-1918）が青春時代、1890年頃に作曲した瑞々しいピアノ組曲であり、とりわけこのプレリュードには「生きる喜び」ともいうべき明るさ、開放的な空気と繊細な音のたゆたいが満ちあふれている。

第一小節からいきなり最高潮の喜びが爆発するため、踊り手のエネルギーを要する難しさがあり、舞台でも氷上でもこれまで舞踊化された形跡がない（同組曲・第三曲「月の光」は、度々舞踊で使用されるのに比して）。ドビュッシーは、ロマン派より後の20世紀の作曲家に分類されるため、自由な音色や感覚の印象的なひらめきが随所にあり、舞踊も自由な発想で対応出来る。聴くと明白なように、同じパート内でも何度か同じフレーズのリフレインがあり、その様相は、二人の踊り手がリフレインをしながら自由に交差する様と連動するであろう。高岸直樹、町田樹の双方とも、身体の明るさと明快な身体動作を得意とし、その切れの良さでモニク・アースの演奏を最高度に表現している。



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

4. 《チャーリーに捧ぐ》 プッチーニ *O mio babbino caro*

振付：町田樹

言わずと知れたジャコモ・プッチーニ作曲の「私のお父さん」は、フィギュアスケート界で頻繁に使用される楽曲である。この楽曲は名だたるスケーターが表現してきたが、なんとスヌーピーの生みの親であるチャールズ・シュルツ氏は自身が手掛けた短編アニメーション映画「彼女っていい人だね、チャーリー・ブラウン」の中で、同曲にのせて滑るペパーミント・パティを描いている。短編アニメ映画の中では、ウッドストックが口笛で「私のお父さん」を演奏し、それに合わせてペパーミント・パティが優雅に滑った。米国サンタローザに自前のスケートリンク（Snoopy's Home Ice）をも建ててしまうほど、スケート文化を愛したシュルツ氏ならではの素晴らしいアニメ映画である。

本フィギュアスケート作品《チャーリーに捧ぐ》は、そのようなシュルツ氏原作のアニメの中に登場するペパーミント・パティの演技へのオマージュとなっている。演奏を務めたのは、口笛奏者の青柳呂武とハープ奏者の小幡華子。シュルツ氏のアニメ作品同様、青柳がメロディーを口笛で奏で、それを小幡華子のハープが優しく裏で支えるという抒情的な演奏で、一步がスーと流れていく伸びやかなスケートイングに実によく合っている。

そして、町田樹の振付の要所要所には、アニメーション動作が引用されている。シュルツ氏は、複数のスケーターの滑走動作をロトスコープでアニメに変換したようであるが、本作では逆にそのアニメの動作を、再び現実の世界で再現する、という面白い試みを行っている。スケートでしか味わうことのできない滑りの伸びやかさを存分に堪能できる作品である。

II. Fryderyk フレデリク

5. 《別れの曲》 ショパン *Étude, Op.10/3*

振付：町田樹

よく知られるこの題名は、ショパン自身の命名でなく、1934年の欧州共同映画の題名から人口に膾炙したという。短い曲ながら4パートに分かれ、A-A-B-A' という構造を持っている。ここには「別れの哀しみ」が「激情」に至り、やがてそれを包み込んで追憶する——という心理の劇が鮮やかに描き込まれる。ツヴィ・エレットは第1パートから第4パートへと変幻する様を繊細に弾き分けており、町田はその原曲の構造とテーマを大事に、フィギュアスケート作品を創造した。元は4名のスケーターがコラボする作品（2020）、そして自作自演の映像作品（2022）を公開した。バレエやフィギュアスケートなどの舞踊では、音楽という媒体を使う以上、それを「受けて」、「二次創作」するという意識を忘れるわけにはいかない。楽曲への理解は創って演奏した人々への敬意であり、踊る人は、音楽に内在するテーマや心理の劇を理解した上で、さらに自分の想像力をそこに加えて「視覚化（ビジュアライズ）」するのである。

6. 《ノクターン》 ショパン *Nocturne in E minor, Op. posth. 72, No. 1*

振付：高岸直樹

本作品は1827年、ショパンが17歳で作曲。友人のユリア・フォンタナが彼の死後に発見し世に出した。1827年4月、ショパンは2歳年下の妹エミリアを結核で喪っている。飛び抜けた文学的才能を示したエミリアは、その将来が期待されていた。それだけに、わずか14歳で逝ってしまった妹の死は、彼の人生に深い翳を残したと言われている。だがショパンの人生をあえて投影しなくても、そこにあるのは「哀しみ」や「悔悟」の念を想起させる旋律。しかし最終部では転調によって「光」を見出し、「超克」し「浄化」される魂が表される。

今回は、川口成彦によるプレイエル社製の古楽器（1842年製）の演奏。まさにショパンが愛した当時の音色であり、その繊細な演奏が深い詩情世界に誘うだろう。現役スケーター時代に「悲劇名詞」と自らも称し、「哀しみ」の表現を得意とした町田樹。その本領発揮の作品を、満を持して師である高岸が彼のために振付けた。



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

7. 《ノクターン》 ショパン Nocturne Op.9-2 (1831年)

振付:町田樹

ノクターン全21曲の中で最も有名な作品。1830年11月、ポーランドは武装蜂起するが、ロシアの鎮圧に敗れ祖国は荒れ果てた。革命の直前に故郷を離れウィーンにいた20歳のショパンは、「神を恨む」とまで慟哭したという。その苦境の中でこの美しい旋律は生み出された。従来の舞踊化では、甘やかなパ・ド・ドゥや妖精を彷彿とさせる女性群舞が多い。

実は町田はこの曲を舞踊化するにあたり、学生ダンサーたちが性別なくソロで踊れるようにはじめ創作した(2018年)。だが創り込むうちに「成熟した男性の内面」を映す作品となる可能性に気づき、これを高岸に献呈するに思い至った。冒頭より印象的に繰り返される「追想」の旋律。そこに寄り添いつつも、時に破綻するムーブメント。最終部では何かに突き動かされる激情が迸る。そしてコーダで奏でられる「教会の鐘」の中で、男は何かに決別し、未来へと歩み出す。

微かな翳りを映し出すツヴィ・エレッツの名演と共に、高岸直樹の円熟した舞踊が光る。



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

III. Widmung 献呈

8. 《継ぐ者》 シューベルト Impromptu in G Flat, Op.90/3, D899/3

振付:町田樹

フランツ・シューベルト(1797-1828)の「4つの即興曲」作品90第3曲を使用。2014年末フィギュア選手を引退した町田が自作自演した、プロ転向第一作である。原曲を編集せず使用し、フィギュアでは異例の6分間超え

で、6種類全てのジャンプも組み込んだ作品は、大反響となった。今回は未公開の演技映像（2015年5月3日収録、プリンスアイスワールド提供）を特別上映する。

町田は、この作品が奇しくも、ベートーヴェンの死去した1827年に作曲されたことにも言及し、「人から人へと連なる、過去へも未来へも永遠と続く、その連綿たる連鎖の中に存在すること——先人たちが辿った軌跡と、未来を形成する者たちに思いを馳せ、《継ぐ者》を制作」した。2023年5月、音源の演奏者・今井頭は東京文化会館小ホールでコンサートピアニストとしての活動に終止符を打った。「この作品には、今井先生の演奏以外あり得ませんでした」と、町田は感謝の念を込めてそう語っている。

9. 《献呈》 シューマン原曲/リスト編曲 **Widmung Op. 25 No. 1 [Arr. Liszt, S. 566]** 振付：町田樹

ロベルト・シューマン（1810-1856）の原曲「献呈」は、歌曲集《ミルテの花》作品25の第1曲目。原曲の詩はドイツ・ロマン派の詩人フリードリヒ・リュッケルトによる。この作品は妻クララへ結婚式前日に贈られたという逸話がある。フランツ・リスト（1811-86）編曲によるピアノ独奏版《献呈》は、原曲を内包しつつもリストの技巧的かつ豪華なパッセージによって、特に終盤では心の内から溢れ出てくるかのような「想いの丈」が高らかに奏でられる。それを十全に表現する反田恭平の演奏が圧巻である。

最終部のシューベルト「アヴェ・マリア」（1825）の旋律では、シューマン＝リストの敬愛の念も喚起される。原詩の冒頭「きみこそはわが魂よ、わが心よ」（志田麓訳）という一文にも導かれ、町田は本曲から普遍的な「献呈」の精神を引き出した。近年身体芸術の極みを示し続けている上野水香が、「舞踊への愛と献呈」を本公演の最後に謳いあげる。

【参考文献】志田麓訳詩・解説『シューマン歌曲対訳全集』第1巻、音楽之友社、1983年



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

Encore アンコール

10. 《トロルドハウゲンの婚礼の日》 グリーグ " **Wedding Day at Troldhaugen** " 振付：高岸直樹・町田樹

エドヴァルド・グリーグ（1843-1907）といえば《ピアノ協奏曲 イ短調作品16》が特に有名であるが、全66曲から構成される〈抒情小曲集 *Lyriske stykker*〉に含まれる、《トロルドハウゲンの婚礼の日》（1896年）も、グリーグ作品のなかで極めて人気の高いピアノ曲である。「トロルドハウゲン」とは、グリーグと彼の妻ニーナが暮らしていた場所のこと。ノルウェー第二の都市ベルゲン（Bergen）の南方にある。フィヨルドを見渡す岬に建てられた館で、没するまでの22年間をグリーグは過ごしたという。現在でも資料館として館は存在しており、その居間には1892年製モデルBのスタインウェイが置かれている。今回の舞踊化にあたっては、このピアノで演奏されたレイフ・オヴェ・アンズネス（ノルウェー、1970-）の音源を使用。まさにグリーグが愛し、演

奏したピアノの音色で、アンズネスは緩急自在に演奏している。

本曲はグリーグ夫妻の結婚 25 周年を祝って作曲されたというが、初めて聴いた人でもそのメロディはなぜか懐かしく、また何度でも繰り返し聴きたくなるような不思議な魅力がある。見知らぬ田舎町の、誰かの結婚式に紛れ込んだかのような、飛び切りの幸福感。原曲は大きく 4 パート A-B-B'-A' という構造になっているが、今回は甘くゆったりとした曲想の中間部 B-B' は上演の都合上カットしている。思わず踊り出したくなる曲想そのままに、高岸・町田が客席に降りて観客を誘うと、おそらく誰もが微笑むことであろう。そして曲が最高潮に達する瞬間に、絶品のバレエジャンプと共に上野が再び登場すると、会場は完全な祝祭空間へと変貌する。そして幸福感を湛えたまま予想外の和音の響きで、一気にステージの幕は降りる——次に再び会えるその時まで、この幸せが続くことを願いながら…。



撮影:松橋晶子 提供:(公財)日本舞台芸術振興会

クレジット

Pas de Trois : バレエとフィギュアに捧げる舞踊組曲

上演日 : 2024 年 4 月 27 日 (土) ①13 : 45 ~、②18 : 30 ~、4 月 28 日 (日) ③13 : 15 ~ 全 3 公演
(ゲネプロ公開 : 2024 年 4 月 26 日 16:30 ~) 東京文化会館 小ホール

主 催 : 公益財団法人日本舞台芸術振興会

特別協力 : 株式会社新書館

衣裳提供 : チャコット株式会社

映像提供 : 株式会社新書館、プリンスアイスワールド

後 援 : 一般社団法人日本バレエ団連盟

協 力 : 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館

監修・構成：Atelier t.e.r.m

振付：高岸直樹、町田樹

演出：高岸直樹、上野水香、町田樹

舞台：ニケステージワークス

音響・映像：大橋正幸（オルフェオ）

音楽編集：矢野桂一

記録撮影：加藤清之（グランシエルピクチャーズ）

照明：劇光社

制作：（公財）日本舞台芸術振興会

メイク：星野安子

リハーサル撮影：吉川幸次郎

宣伝写真：難波雄史

宣伝衣裳協力：EMPORIO ARMANI

宣伝写真ヘアメイク：猪狩友介（Three PEACE）

パンフレット制作・提供：株式会社新書館

構成・執筆：©Atelier t.e.r.m

デザイン：SDR（新書館デザイン室）

パンフレット発行日：2024年4月27日

音源：

- 《エオリアンハーブ》 ショパン Étude, Op.25/1 (1836)

Tzvi Erez, *Chopin Étues*, NiV Classical

- 《楽興の時》 シューベルト／ゴドフスキー編曲 Moments musicaux, D.780/3 (1828)

今井頭, Akira Imai plays Scubert, ナミ・レコード [WWCC7338]

- 《プレリュード》 ドビュッシー Prélude dans Suite Bergamasque (c.1890)

Monique Haas, 月の光：ドビュッシー・ピアノ名曲集, Warner Music Japan [WPCS-4621/2]

- 《チャーリーに捧ぐ》 プッチーニ O mio Babbino caro (1918)

青柳呂武・小幡華子, Atelier t.e.r.m 個人蔵音源

- 《別れの曲》 ショパン Étude, Op.10/3(1832)

Tzvi Erez, *Chopin Étues*, NiV Classical

- 《ノクターン》 ショパン Nocturne, Op. posth. 72 /1 (1827)

川口成彦, *F. Chopin: Nocturnes & Short Pieces*, Acoustic Revive [AR1006]

- 《ノクターン》 ショパン Nocturne, Op.9/2 (1831)

Tzvi Erez, *Tzvi Erez plays Chopin*, NiV Classical [NiVCD00021]

- 《継ぐ者》 シューベルト Impromptu in G Flat, Op.90/3, D899/3 (1827)

今井頭, 個人蔵音源

- 《献呈》 シューマン／リスト編曲 Widmung, Op. 25/1 [trans. by Liszt, S. 566] (1848)

反田恭平, *Clair de Lune Recital Pieces Vol.1 (Kyohei Sorita Piano Recital 2017)*, Denon [COCQ-85364]

- 《トルルドハウゲンの婚礼の日》 グリーグ Lyric Pieces, Op.65, No.6 Wedding Day at Troldhaugen (1896)

Leif Ove Andsnes, レイフ・オヴェ・アンスネス：グリーグ：抒情小曲集, ワーナーミュージック・ジャパ

映像出典：

■ 《チャーリーに捧ぐ》

Atelier t.e.r.m 提供, 町田樹エチュードプロジェクト (YouTube チャンネル, 2023 年 5 月 3 日収録)

■ 《別れの曲》

新書館提供, フィギュアスケーターのためのバレエ入門, 新書館 [DD22-0902]、2022 年

■ 《継ぐ者》

プリンスアイスワールド提供, プリンスアイスワールド 2015 横浜公演 (5 月 5 日第二公演収録)

以 上